

「看護医療総合」 5月31日

小池一成さん（医師）のお話を聞いて



●今日はお医者さんにお話を伺いました。他の医療職の方の話は聞いたことがありましたが、お医者さんはあまり聞いたことがなかったのでとても興味深かったです。その中でこれから私たちが進学して医療について学ぶ上で重要なことを知ることができました。一つは基礎の勉強を怠ってはいけないということです。今私たちが生物で習っているような身体の仕組みなど少し退屈な分野でもとても大切なことだということがわかりました。正常が分かるから異常が分かる聞き、日々の積み重ねの大切さを実感することができました。また今日初めて、EBMとNBMという言葉を知りました。EBMとは、根拠に基づいた医療のことでNBMとは、その人の物語（人生）に沿って医療を進めていくという考え方のことだそうです。病院側が意見を押し

付けることなく病気について説明し、治療法なども提示し受けた質問には全て答えることが真のインフォームドコンセントだということが分かりました。認知症の治療法の中にユマニチュードというものがあります。これは薬を使って治療するのではなくその人の人格を認めて尊重するというやり方です。こうすることで認知症で気性が荒くなっている方でも穏やかになることがあるそうです。しかし実際には看護師の仕事も効率を重視してユマニチュードのように患者さんと真摯に向き合うということができなくなっているのが現状だと思います。私はこの現状がかえって今の医療機関のひっ迫に繋がっていると思いました。しかし看護師の仕事もAIで補うことはほぼ不可能だと思いますが、AI技術が発達しても看護の世界だけは人と人との関わりを大切にしてほしいと感じました。今回の講義をうけ、改めて患者さんとの関わり方を考えることができました。もちろん効率よく仕事をするのは大切だと思いますが、患者さんとの関わりを疎かにせず、自分自身の死生観や考えを持ち、相手を尊重できるような看護師を目指したいと思いました。

●・・・お話を聞いて、特に大切だと感じたことは、本当の勉強をしてほしいということです。医療従事者になるためには、もちろん確かな知識が必要で、沢山の専門書を読み勉強すると思います。しかし医療従事者になる



ために、専門書を読むような勉強だけではいけないのです。映画、本、漫画等を読んだり、人付き合いを大切にすることで、考え方を増やしたり、価値観を共有したりすることも大切な勉強です。医療従事者になった時、患者さんは、医療に関して素人の場合がほとんどということ、でも相手が素人だからこそ、プロとして最良のものを提供しなければいけない。また、医療従事者となると、関わる人も医療従事者がほとんどとなり、医療従事者同士での価値観ばかりで物事を考えてしまう。このお話を聞いて、考え方や価値観を学ぶ事も本当に必要なことなのだと感じました。またこの勉強は今からでもできるものだと思います。私は今回医師のお話を聞いて、医療従事者になりたい気持ちが

が強まりました。なぜなら、人と関わる医療従事者の大変さも感じましたが、同じくらい自分自身の学び続ける姿勢が必要となる、やりがいがある本当に素敵な仕事だと感じたからです。今回AI技術に関することについてもお話を聞きしましたが、AI技術が多少導入されたとしても人がいなくなっていくべきではない。看護に関しては、AI技術が入りづらいところだと教えてくださいました。このお話を聞いて、医療・看護はやはり、まだまだ人の手が必要な重要な仕事なのだと感じました。今のうちから本当の勉強に励み、医療従事者になりたいと思いました。